

平成13年度 施策別 取組 方向

部局名：地域振興部

施策番号	施 策 名		
533	公共交通網の整備		
【2010年度の目標】 誰もが利用できる身近な移動手段として公共交通機関の利用が促進され、交通渋滞の緩和や環境負荷の軽減が図られています。			
項 目	基準年度の状況	1999年度実績	2001年度の目標 (2010年度の目標)
関西本線四日市～名古屋間の複線化率(延長37.2km)	53%	事業化の促進	事業化の促進 (76%)
関西本線亀山～加茂間の電化率(延長61.0km)	0%	事業化の促進	事業化の促進 (67%)

1 平成11年度の取組

(1) 平成11年度の取組概要とその成果

【バス】

地方バス路線維持費補助金により、第3種生活路線(平均乗車密度5人未満)は33市町村109系統に、市町村自主運行バスは26市町86系統にそれぞれ運行費補助した。

鈴鹿市によるコミュニティバス実証実験に助成した。

「地域交通に関する需要予測調査」を実施し、県内各地域の過疎化・高齢化等の状況を把握し、交通需要特性を明らかにした。

【鉄道】

鉄道軌道近代化設備整備費補助金により、伊勢鉄道(株)(第三セクター)及び三岐鉄道(中小民鉄)に対し国・市町村とともに補助し、鉄道軌道の近代化設備の整備を進めた。

【地域ITS】

三重県DCS(デジタルコミュニティズ)推進委員会の下に「交通部会」を設け、ITSを活用した公共交通の利用促進(利便性の向上)の検討に着手した。

(2) 平成11年度の取組に対する問題点

【バス】

地方バス路線維持費補助金は、市町村自主運行バスにかかる補助金が10年度に比べ金額で約3千万円(42%)の増となった。(第3種生活路線は500万円(6%)増)

現行補助制度は、地域機関が関与する仕組みになっていない。

【鉄道】

当該施策の目標項目について、利用者の増加は見られず、複線化・電化は進んでいない。

2 平成12年度の取組と成果見込み

【バス】

地域住民にとって真に必要な、効率的で持続性の高い移動手段を確保するため、「新たな地域交通の導入可能性調査」を実施するとともに、市町村との連携や各地域での議論を行いながら、地域交通の維持・整備方策について検討する。

【鉄道】

11年度に引き続き、両社に鉄道軌道近代化設備の補助を行う。

「三重県鉄道網整備促進期成同盟会」の下に「三重県内JR在来線高速化研究会」(仮称)設け、新幹線直通運転化を含む地域の鉄道網整備のあり方を研究する。

【地域ITS】

ITSを活用した施策については、交通部会の報告を受け、関係部局で検討する。

3 平成13年度以降に向けての取組方向

【バス】

「地域交通に関する需要予測調査」(11年度)、「新たな地域交通の導入可能性調査」(12年度)、鈴鹿市コミュニティバス実証実験への助成(11~12年度)を踏まえ、また国の動向を見ながら、地域交通(バス)の維持・確保にかかる補助制度を見直すとともに、新しい手法やシステムによる施策について、県は必要な情報提供等を行いながら、地域(市町村)での議論を促進させる。

低床バスの導入を促進するため、補助制度について関係部局と協議、検討する。

【鉄道】

引き続き、両社に鉄道軌道近代化設備の補助を行う。

新幹線直通運転化を含む地域の鉄道網整備のあり方を研究する。

【地域ITS】

ITS施策について、有効な施策の推進を図る。